

とどけ平和の願い

特選に内海君(日光小)ら六名

八月六日は広島、九日は長崎の原爆記念日
そして、十五日は終戦記念日です。

日光市では、昭和六十一年八月一日に、世
界の恒久平和を願って「非核平和都市宣言」
を行いました。(表紙参照)

平和に関する作文を通して、子供たちが平
和の意義を考え、非核平和都市としての平和
推進の糧とするため、市内の小学六年生と中
学三年生を対象に行った「平和に関する作文
コンクール」の審査結果が、次のように決ま
りました。

紙面の都合で、特選作品のみ掲載いたしま
すが、ご家族でお読みいただき、平和につい
て、核戦争の恐ろしさについて、もう一度お
考えください。

特選

○小学校(六年)の部

- 日光小学校 内海雅之
- 中宮祠小学校 飯見怜子
- 安良沢小学校 児玉梨江

○中学校(三年)の部

- 日光中学校 宇塚晴由

入選

○小学校(六年)の部

- 日光小学校 加藤健太
- 清滝小学校 飯島亜希子
- 清滝小学校 長井泰卓
- 野口小学校 池口充寛
- 野野小学校 目崎充寛
- 所野小学校 木村浩美
- 小来川小学校 佐藤恭子
- 安良沢小学校 渡辺和恵

- 東中学校 古橋里実
- 東中学校 君島洋子

○中学校(三年)の部

- 日光中学校 福田祐一
- 日光中学校 齋藤信代
- 中宮祠中学校 紺野真奈美
- 東中学校 中野貴子
- 東中学校 佐藤順子
- 東中学校 根本陽子
- 東中学校 福田陽子
- 東中学校 高藤喜史
- 東中学校 青木あかね
- 小来川中学校 佐藤桂子

ぼくたちの役目

日光小六年

内海雅之



「今、何がほしいですか。」
という質問に、小さな声で、

「パン」

と、答えた男の子。その子の目のまわりには
はえがたくさんとまっています。骨と皮だ
けにやせおとろえた体。体力がなくて歩くこ
とができずはいずれ回っている子。食料不足
から栄養失調や病気で、生きたくとも生きら
れず、バタバタ死んでいく子。その子どもた
ちの悲しそうな目が忘れられません。テレビ
の特集番組で見た難民の姿でした。ぼくは、
この光景を一生忘れることができないと思っ
ます。

ぼくたち日本人は、今、何不自由なく平和
な毎日を過ごしています。しかしその反面、
貧困やうえて苦しんでいる人がいかに多いか、
というのを知りました。同じような体験を
四十年前にした祖父母は、時々、戦争中の苦
労話をしてくれることがあります。今のぼ
くには想像もつきません。ぼくだんの中をに